

2024年度 夏出発 Business Studies Abroad II・IV 2次募集 募集要項

<https://ritsumei-ba-gblp.jp/>



INDEX

1	Business Studies Abroad II・IV募集の流れ	P. 1
2	Business Studies Abroad II・IVとは？	P. 1
3	応募資格について	P. 2
4	留学予定先について	P. 3
5	学籍と受講登録・専門演習の特別履修について	P. 4
6	留学決定後の事前ガイダンスについて	P. 5
7	応募書類について	P. 5
8	選考方法について	P. 5
9	留学に関わる費用・奨学金について	P. 6
10	単位認定について	P. 7
11	注意点	P. 7
12	個人情報について	P. 7
13	派遣先大学紹介	P. 8
15	立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラム（BSAプログラムなど）に参加するにあたっての遵守事項	P. 17
16	立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラム（BSAプログラムなど）に関する承諾書	P. 19

※不測の事態により、募集要項通りにプログラムを実施することが困難であると判断した場合には、内容の変更を行うことがあります。その判断は派遣先大学と調整の上、本学経営学部が行います。そちらを承諾の上、プログラムの申請をご検討下さい。

1 Business Studies Abroad II・IV募集の流れ

以下のとおり、2024年度夏出発BSA II・IVの2次募集を行います。(選考年度:2023年度)

項目	日程	方法	備考
※応募を考えている方は 必ず応募の前に経営学部事務室国際担当にご相談の上、応募ください。 <経営学部事務室 国際担当 @AC事務室内> 平日9:00～17:00 (11:30～12:30、土日祝を除く) ☎072-665-2090 ✉ba-koku@st.ritsume.ac.jp ★先輩の留学体験談動画をmanaba+Rで公開しています！応募の際の参考にしてください！ → manaba+R > 経営学部生のページ> 【BSA】経営学部独自留学プログラム 			
応募書類提出期間	2023年12月6日(水) ～12月8日(金) ※最終日16時00分締切	【応募書類入手方法】 BSAのHP< https://ritsume-ba-gblp.jp > よりダウンロード  【提出方法】 申請資料一式を印刷し左上に ホチキス止めの上、 OIC学びステーション窓口で提出	・応募書類を手書きで作成する場合はすべて黒のボールペン(鉛筆・フリクションは不可)で記載すること ・応募書類に不備のあった場合、不備修正を含め応募締切までに行う必要があることに留意すること <窓口での提出受付時間> 平日9:30～16:30 (11:30～12:30、土日祝を除く)
面接期間	12月11日(月)・12日(火) 各日ともに9:30～16:30	ZOOM	・応募書類の提出時に左記日程より希望日時を複数提示ください ・30分程度の個人面接 ・詳細は学内メールへ後日(12/8を予定)連絡しますので、確認後返信をお願いします
派遣許可者決定 (合否結果発表)	12月20日(水) 10:00	manaba+R	合否結果は、 manaba+R > 大学からのお知らせ > 「留学」 に掲載されます。
第1回派遣者ガイダンス	2024年1月12日(金) 12:10～	対面実施(予定)	詳細は合格者に別途学内メールにて連絡します

2 Business Studies Abroad II・IVとは？

BSA II 及びIVは、経営学部で学んでいる皆さんに、自らの専攻する学問に対して国内だけでなく、グローバルな社会の要請や意義を確かめ学んでいただく経営学部独自の留学プログラムです。留学先大学で修得した外国語や専門科目は、経営学部の単位として認定されます。そのため、留学前の本学での学修と留学先での学修を積み上げていけば、留学したことで卒業が遅れることはありません。またこのプログラムの基本は交換留学であり、学費は本学と留学先大学との間で相殺になるため(派遣型留学を除く)、留学先に学費を支払う必要はありません。「立命館大学海外留学チャレンジ奨学金」に基づき、留学期間に応じて奨学金も支給されます。

BSA II 及びIVは、国際経営学科で学ぶ皆さんが、グローバルな視点に立って世界を舞台に活躍する「ビジネス・リーダー」になるために開発されたプログラムです。

共通	- 経営系の大学やビジネススクールで各自の経営学の専門分野に応じた正規留学科目を受講することができます。 - 原則、中国の大学では中国語、それ以外の派遣先大学では英語で開講される授業を受けることになります。派遣先大学によってはその派遣先国の言語で開講される授業も受講できます。また、各自の語学レベルによっても派遣先国の言語で開講される授業の受講が許可される場合があります。	BSA II	1セメスターの交換型留学
		BSA IV	2セメスター、3セメスターの交換型 / 派遣型留学

* 経営学部では、長期留学予定学生が留学派遣先大学でより充実した学習ができるよう、留学前もしくは留学後の教育として、英語もしくは中国語による「プロジェクト研究(GBLプログラム型)」を開講しています。GBLとはGlobal Business Leadershipの略称で、「プロジェクト研究(GBLプログラム型)」とはグローバルな視点に立って世界を舞台に活躍するビジネス・リーダーの育成を目標に設計されている科目です。BSA留学プログラム、および全学留学プログラムにて海外に留学に行く学生はぜひ受講してください。

3 応募資格について

プログラムの応募資格は次の1)～6)の通りです。

なお、応募にあたっては事前に必ず経営学部事務室国際担当に相談ください。

- 1) 応募時に経営学部1・2回生であること。(3回生で応募希望の方は、相談時に申し出てください。)※大学院生は対象外
- 2) 累積もしくは直近セメスターのGPAが2.75～3.0以上であること。
- 3) 留学先の定める語学基準を満たしていること。

※詳細は「4-1. 派遣先一覧」の語学基準欄を参照してください。

※経営学部では申請と所定の審査に基づき、講座や検定試験の受講・受験料の補助を下記の通り行っています。

詳細は経営学部事務室までお尋ね下さい。

・CLA(言語習得センター)、孔子学院の中国語講座の講座受講料 25,000円(上限)※在学中1回まで

・TOEFL iBT®テスト、IELTS、IELTS for UKVIの受験料 15,000円(上限)※1年度中1回まで

- 4) 本プログラムの趣旨・目的を理解し、留学前、留学後に行われるガイダンスやオリエンテーション、現地での学修のすべてに参加可能であること。
- 5) 留学先のプログラムについて、多大な関心と意欲を持っていること。
- 6) 留学直前のセメスターに立命館大学に在学していること。



BSAプログラムと全学募集プログラム(国際教育センター主管の留学プログラム)を併願することはできますか。

すでに同じ期間に実施される留学プログラムの選考に応募・合格している方は、同期間のプログラム(全学募集プログラム・BSAプログラムの別を問わず)に応募できません。同じ期間に実施されるプログラムへの応募を希望する場合は、応募・合格しているプログラムの辞退を申し出た後で、応募してください。



memo

4

留学予定先について

4-1.派遣先一覧

	国・地域名	派遣先大学	実施期間(※1)		派遣人数(※2)	GPA	語学基準(※3)	
			Ⅱ:1セメスター	Ⅳ:2セメスター				
交換留学	中国 大連市 旅順	大連外国語大学	8月下旬～ 翌年1月中旬	8月下旬～ 翌年7月中旬	3名 程度	2.75 以上	派遣までに新HSK4級(180～194点)以上/ または中国語検定3級以上を取得する事が望ましい	
	中国 北京市	対外経済貿易大学	8月下旬～ 翌年1月中旬	8月下旬～ 翌年7月中旬	2名 程度	2.75 以上	<中国語での申請> Ⅱ: 新HSK5級 (195点～209点) 以上 Ⅳ: 派遣までに新HSK4級(180点～194点) 以上を取得することが望ましい	★
							<英語での申請> TOEFL iBT®テスト72点以上 または IELTS 5.5以上	
	カナダ ビクトリア	カモーションカレッジ (◆)	8月下旬～ 12月下旬	8月下旬～ 翌年4月下旬	1名 程度	3.0 以上	TOEFL iBT®テスト78点以上 (各項目19点以上) またはIELTS 6.0以上 (各項目5.5以上)	
	タイ バンコク	タマサート大学 ビジネススクール	8月下旬～ 12月下旬	8月下旬～ 翌年4月下旬	2名 程度	3.0 以上	TOEFL iBT®テスト79点以上 または IELTS 6.0以上	
	スウェーデン ストックホルム	ストックホルム大学 ビジネススクール	8月中旬～ 翌年1月下旬	8月中旬～ 翌年6月上旬	1名 程度	2.75 以上	TOEFL iBT®テスト79点以上 または IELTS 6.0以上	
	フランス ストラスブール	ストラスブール大学 EMストラスブール ビジネススクール	8月下旬～ 12月下旬	8月下旬～ 翌年4月下旬	2名 程度	2.75 以上	TOEFL iBT®テスト72点以上 または IELTS 5.5以上	
	ドイツ ブレーメン	ブレーメン州立 経済工科大学	9月下旬～ 翌年2月下旬	9月下旬～ 翌年7月中旬	1名 程度	3.0 以上	TOEFL iBT®テスト71点以上 または IELTS 5.5以上	
ドイツ アーヘン	アーヘン 応用科学大学	9月上旬～ 翌年2月下旬 夏期集中ドイツ語コース含 む	9月上旬～ 翌年7月中旬 夏期集中ドイツ語コース含 む	2名 程度	3.0 以上 (※5)	IELTS 5.5以上		
派遣型留学	イギリス レディング	レディング大学 【派遣型留学】 (※4)	Ⅱなし	8月上旬～ 翌年3月下旬 夏期集中英語コース含む	10名 程度	2.75 以上	IELTS for UKVI 5.0以上	

(※1) 派遣時期は若干ずれることがあります。(※2) BSAⅣで学生を派遣する際の派遣人数を記載。
(※3) 語学基準については、申請時に必要となります。応募時までに上記語学基準を満たす必要があります。なお、語学基準は変更になる場合があります。申し込み前に必ず募集要項を確認して
ただし母国語を中国語とする方は中国語基準での応募申請はできません。
(※4) レディング大学は2024年度よりカリキュラムが変更されます。期間・費用といったプログラム内容に変更がある予定ですので詳細は経営学部事務室までお問い合わせください。
(※5) アーヘン応用科学大学の成績基準は上記の基準に変更されています。2023年BSAの手引きの内容と相違していますのでご注意ください。
(★) 中国・対外経済貿易大学に申請される場合は、英語基準・中国語基準のいずれか一方で申請可能となります。
ただし、派遣先で英語開講の専門科目を受講希望される方は、渡航までにTOEFL iBT®テスト80点またはIELTS 6.0以上程度の取得および語学力の向上を目指してください。
(◆) 2024年度夏出発から募集開始の新規協定先です。

4-2.留学先での科目履修について

【中国語基準による留学】

- ・対外経済貿易大学では次のような学修が可能です。
「基礎中国語」+「ビジネス中国語」+「中国語(英語)で専門科目」を履修する。
※語学学習を目的として留学を希望する方には、大連外国語大学への応募を推奨します。
- ・大連外国語大学では次のような学修が可能です。
①中国語科目、一部の経済・経営科目を履修する。
※経済・経営科目を受講する場合は、新HSK4級(210～300)以上の取得が条件です。
②インターンシップ(別途審査があります)を受講。但し、インターン先はご自身で探していただきます。

【英語語基準による留学】

- ・各自の専門分野に応じた経営に関する正規科目(英語開講科目)を受講。
- ・各大学とも現地の言語の初歩レベルの科目を履修可能。
- ・また、現地の言語のレベルにより正規科目(現地言語にて開講される科目)を受講できる可能性があります。

5 学籍と受講登録・専門演習の特別履修について

5-1. 学籍

夏出発のBSAⅡ・Ⅳプログラムで留学する際に、立命館大学での学籍が「在学」から「留学」に変更になる期間は以下の通りです。

派遣大学	BSAⅡ	BSAⅣ
大連外国語大学	秋学期	秋学期・春学期
対外経済貿易大学	秋学期	秋学期・春学期
カモーンカレッジ	秋学期	秋学期・春学期(※)
タマサート大学ビジネススクール	秋学期	秋学期・春学期
ストックホルム大学ビジネススクール	秋学期	秋学期・春学期
ストラスブール大学EMストラスブール ビジネススクール	秋学期	秋学期・春学期(※)
ブレーメン州立経済工科大学	秋学期	秋学期・春学期
アーヘン応用科学大学	秋学期	秋学期・春学期
レディング大学		秋学期・春学期(★)

(※)BSAⅣ / カモーンカレッジ・ストラスブール大学EMストラスブールビジネススクール派遣者には下記(B)の受講登録パターンが適用される可能性があります。

(★)3月31日までに留学終了届が提出・受理された場合で、かつ卒業該当最終学期での留学でない場合のみ立命館大学では秋学期(1セメスター)のみ学籍状態が「留学」になります。4月1日以降に留学終了届が提出・受理された場合、立命館大学では秋学期と春学期の学籍状態が「留学」になります。

5-2. 帰国後受講予定の立命館大学開講科目 受講登録について

■夏出発のBSAⅡ・Ⅳプログラムで留学する学生は、以下の点に留意してください。

留学から帰国後、「留学終了届」が受理されたタイミングで受講登録できる科目が変わります。

A. 【春学期授業開始日までに留学終了届が受理された派遣者】

在学生と同じ日程で受講登録をしてください。

B. 【4月30日以前に留学終了届が受理された派遣者】

留学終了届の受理が立命館大学春学期授業開始日を過ぎる場合は、受講可能な科目に制限があるため、注意してください。

→春学期科目・通年科目のうち、教養科目・外国語科目の受講は不可。専門科目のうち一定の科目を除き受講可能。受講可能科目の詳細及び登録方法は、登録時期に別途案内があります。また、欠席した授業については、適宜課題等が提示されます(予定)。

C. 【5月1日以降に留学終了届が受理された派遣者】

5月1日以降に留学終了届が受理された場合は秋学期より復学するので、秋学期以降に受講が可能となります。

※ただし、夏集中科目およびクォーター的運用をしている科目等については、「留学終了届」が当該科目の授業開始日までに受理され、実質的に受講可能な場合は受講が認められます。

※以下の科目については授業初回までに留学終了届が受理されていれば受講可能です。

春集中科目・夏集中科目(他学部科目を含む)、通年科目(一部)

■注意点

- ・時間割及び「履修・登録の手引き」は、manaba+Rに掲載されます。
必ず各自で確認をし、必要な手続きを踏んでください。
- ・登録方法、期間、締切り時間は全て日本で登録する学生と同じ条件であり、かつ日本時間にて管理されます。
- ・「留学終了届」は留学から帰国後、OIC学びステーションに提出が必要です。提出後、受理された場合上記記載のとおり受講登録が可能となります。

5-3. 専門演習(ゼミ)の特別履修について

<2023年度入学生(現在1回生→留学時2回生)>

2023年度1回生は、3回生から専門演習の履修が強く推奨されています。専門演習の募集が行われる2024年度秋学期に各自で申請手続きをしていただく必要があります。

BSAⅣのプログラムに参加し、2025年5月1日以降に「留学終了届」が受理された場合、専門演習Ⅰの受講ができませんが、帰国後速やかに所定の申請書を事務室に提出することで、専門演習Ⅱから参加することが可能です。

<2022年度入学生(現在2回生→留学時3回生)>

2023年度2回生は、3回生から専門演習の履修が強く推奨されています。

3回生から専門演習を履修している場合、帰国後速やかに所定の申請書を事務室に提出することで、留学期間中の専門演習の受講が免除されます。

<2021年度入学生(現在3回生→留学時4回生)>

専門演習はパッケージ履修となるため、4回生秋学期に留学し、「専門演習Ⅳ」および「卒業論文」の受講ができない場合、留学前に修得した専門演習「専門演習Ⅰ～Ⅲ」の単位は卒業に必要な単位として算入されません。その分の単位は他の専門科目で単位修得する必要がありますので、計画的に履修を進めてください。

■注意点

- ・BSAⅡまたはⅣでの留学(正規留学)に伴い、専門演習を受講できないセメスターがある場合には、事前に必ず担当教員に報告・相談をしてください。
- ・留学前に特別履修の申請を行う必要はありません。
- ・提出する書式は変更される可能性があります。帰国時にmanaba+Rに掲載されている最新書式を各自確認してください。
- ・留学(正規留学)により留学期間中の専門演習の受講が免除される場合でも、卒業論文の到達目標は変更されません。留学中においても卒業論文作成の準備を進める必要がある場合があります。渡航前・留学中に適宜、専門演習担当の教員に相談するようにしてください。

6 留学決定後の事前ガイダンスについて

留学前に2〜3回程度ガイダンスを行います。派遣には、このガイダンスへの出席が必須です。ガイダンスに出席できない見込みがある場合は、BSA II・IVに応募出来ません。

許可を得ずにガイダンスを1回でも欠席すると、派遣先大学での留学参加を取りやめる場合がありますので、注意してください。

また、保健センターが主催する健康管理ガイダンスや危機管理ガイダンスにも必ず参加してください。

※原則、授業以外での欠席理由については一切許可しません。予めご了承ください。

7 応募書類について

7-1. 応募書類

1) BSA II・IV応募書類チェックリスト

2) BSA II・IV申請書

3) BSA II・IVを希望する理由

4) 履修計画書

5) 直近セメスターのGPAを確認できる書類(※A4サイズ)

※CAMPUS WEBにログインの上、「科目一覧」および「GPA一覧」を表示し、

学生証番号、氏名、2023年度春学期のGPAと累積GPAを確認出来るよう設定し印刷してください。

※成績証明書は累積GPAが掲載されていない為不可

6) 外国語検定試験のスコア証明書のコピー

※派遣先大学に書類を送付する日から遡って2年以内に受験したもののみ有効。

【英語圏】

TOEFL iBT®テスト、またはIELTS (IELTS for UKVI) のスコア表のコピー

【中国語圏・大連外国語大学】

中国語検定またはHSK(漢語水平考試) スコア表のコピー (未受験の場合は不要)

【中国語圏・対外経済貿易大学】

(中国語基準で応募申請する場合)

HSK(漢語水平考試) スコア表のコピー ＜Ⅱでの派遣希望の場合、必須＞

(英語基準で応募申請する場合)

TOEFL iBT®テスト・IELTSいずれかのスコア表のコピー

7) 面接希望日時調査票

8) パスポートの写し(有効期限内のもの)

※派遣先の国によって入国時やビザ申請時にパスポートの残存有効期限に条件があります。

各自条件をご確認の上、有効期限には十分注意してください。

7-2. 応募用紙の配布・受付場所

【応募用紙配布】:BSAホームページ< <https://ritsumei-ba-gblp.jp> >よりダウンロード ※受付期間中のみ

【提出方法】:申請資料一式を印刷し左上にホチキス止めの上、OIC学びステーション窓口で提出

※受付時間を厳守してください。提出締切日以降は一切受け付けません。

※最終日ではなく、事前に十分余裕を持って書類を準備してください(不備がある場合は受理できません。)



8 選考方法について

選考は、申込レポート・成績・派遣先大学が求める語学基準を満たしているかを重視して、担当教員が書類審査及び面接を行い、経営学部教授会での審議を経て決定されます。

9

留学に関わる費用・奨学金について

9-1. 費用

交換留学の場合には、学費は本学と留学先大学との間で相殺になるため、留学先に学費を支払う必要はありません。
(レディング大学派遣者のみ、決められた期日までに授業料を振り込む必要があります)

【主な費用】

- ・包括海外旅行保険費用(※大学指定の保険に参加者全員加入していただきます)
- ・ビザ取得の為にかかる費用
- ・渡航費(航空券)
- ・現地出入国税、空港税、航空保険料
- ・寮申請費および寮費といった住居にかかる費用
- ・現地での交通費
- ・教材費等
- ・クリーニング代、電話代、お土産代などの雑費
- ・娯楽費
- ・医療費(特に現地での歯の治療にかかる費用は日本の数十倍かかる場合があります)

【注意点】

- ・派遣先国や大学によって、先方が指定する保険への加入が義務付けられている場合、本学指定の保険と併せて加入が必要です。日本で加入した保険の証書を提出するなどで先方指定の保険加入が免除されることもあるため、派遣決定後各自条件を確認してください。
- ・費用は、物価の上昇、為替相場によって変動しますのであくまでも参考としてください。

参加費用の過年度実績については、「2023年度 BSAの手引き」P.20を参照してください。
(※http://ritsumei-ba-gblp.jp/pdf/2023_BSA_tebiki.pdf?ver=1.1)

9-2. 奨学金

※奨学金によっては併給できないものがあります。事前に経営学部事務室またはOIC国際教育センターに確認を行ってください。

1) 立命館大学海外留学チャレンジ奨学金

原則として派遣者全員に「立命館大学海外留学チャレンジ奨学金」が支給されます。なお、奨学金は派遣中に学生本人名義の口座に給付されます。

プログラム名	派遣先大学名	派遣期間	奨学金金額
BSA II	大連外国語大学	1 Semester	15万円
	対外経済貿易大学		
	カモーションカレッジ		
	タマサート大学ビジネススクール		25万円
	ストックホルム大学ビジネススクール		
	ストラスブール大学EMストラスブールビジネススクール		
	ブレーメン州立経済工科大学		
	アーヘン応用科学大学		
BSAIV	大連外国語大学	2 Semester	20万円
	対外経済貿易大学		
	カモーションカレッジ		
	タマサート大学ビジネススクール		30万円
	ストックホルム大学ビジネススクール		
	ストラスブール大学EMストラスブールビジネススクール		
	ブレーメン州立経済工科大学		
	アーヘン応用科学大学		
BSAIV 【派遣型】	レディング大学	2 Semester	30万円

※奨学金の金額は今後変更となる場合があります。

2) 立命館大学海外留学サポート奨学金

経済上の事由により、プログラムへの参加または参加継続が困難である者に対し、参加費用の一部を補助することによって、参加の支援を行うことを目的とする制度です。

海外留学サポート奨学金には、「予約採用型」「家計急変型」の2つのタイプがあり、いずれも要項に定められた家計基準を満たす場合に、奨学金選考の対象となります。給付額や申請・選考方法などの詳細は、以下を確認してください。

<http://www.ritsumei.ac.jp/studyabroad/planning/scholarship/>

3) JASSO(独立行政法人日本学生支援機構)海外留学支援制度

立命館大学から支給される奨学金とは別に、JASSO(独立行政法人日本学生支援機構)が所管する奨学金に採択された派遣国がある場合は、別途受給要件を告知した上で選考を行います。

10

単位認定について

単位認定について(※学修要覧(全学部共通編)P.28 より抜粋)

<規程:学則第37 条、第39 条、第40 条、第41 条>

- ① 海外留学や単位互換制度等他大学で修得した単位は、60 単位を超えない範囲で本学における卒業に必要な単位として学部の教授会で審議の上、学部長が認めることがあります。なお、60 単位の上限は、個々の制度・プログラム毎ではなく、他大学等で修得した単位全体の上限となりますので、注意してください。
- ② 入学前に修得した単位を認定された場合(本学の科目等履修生として入学前に単位を修得した場合、社会人方式または社会人方式<AO 方式>)は、①と合わせて60 単位(うち入学前単位認定の上限は30 単位)が上限となります。
- ③ 留学先で修得した単位の認定にあたっては、帰国後速やかに「留学終了届」と「単位修得願および単位認定書」を学部事務室に提出することが必要です。単位認定時期は、留学終了日を含む学期の末日となります。

- ※ 認定された単位の成績評価には「T」が記載されます。
- ※ 単位認定に関わる申請書類および派遣先大学の成績証明書、受講した科目のシラバス(原文及び和訳)、派遣先大学の学年暦を各自準備し、提出する必要があります。

留学前より履修科目や単位認定について窓口で相談の上、留学中と帰国後の学修計画を立てておく必要があります。

■ 過年度派遣学生の単位認定実績(参考)

派遣先大学	BSA II	BSAIV
大連外国語大学	10～25単位	40～50単位
対外経済貿易大学	10～20単位	40～50単位
カモーションカレッジ	実績なし	実績なし
タマサート大学ビジネススクール	10～15単位	実績なし
ストックホルム大学ビジネススクール	5～10単位	6～15単位
ストラスブール大学		
EMストラスブールビジネススクール	5～10単位	6～18単位
プレーメン州立経済工科大学	8～15単位	15～35単位
アーヘン応用科学大学	8～15単位	実績なし
レディング大学		20～25単位

※単位認定数や単位認定分野・科目については、派遣先や各自の履修状況により異なりますので、ご注意ください。

11

注意点

- 1) 派遣先大学への応募書類の準備、ビザの申請、航空券の手配などは全て各自で手続きする必要があります。経営学部事務室では対応していません。
- 2) 現地での留学・実習期間が定期試験の追試や成績確認制度の日程と重なる場合は、それらを受けることはできません。また、それに対する特別措置はありません。
- 3) 経営学部での選考において派遣内定者として決定したのち、派遣先大学に応募書類を送ります。受入の可否についての最終決定権は派遣先大学にありますので注意してください。また、派遣先大学によっては応募時に別途インタビューなどが課せられる場合があります。
- 4) 留学先での履修については、派遣先大学での規定に則ります。言語能力や履修規定によって履修科目が制限されることがあります。
また、正規科目以外の語学科目(ESL等)や、履修する科目があらかじめ指定される場合もあります。
- 5) 本学及び派遣先が定める期間内に出入国するようにして下さい。
- 6) 日本学生支援機構奨学金受給者の方は、派遣決定後速やかに学生オフィスに報告を行い、必要な手続きを取ってください。
- 7) 3回生・4回生時に留学に行く場合、就職活動など個人的事由による帰国は一切認められませんので、事前に必ずキャリアオフィスや経営学部事務室に相談してください。
- 8) 寮を含め、滞在先の手配は各自で行います。経営学部事務室と派遣先大学は可能な範囲でサポートしますが、滞在先の保証はできません。

12

個人情報について

応募書類に記入する個人情報は、本学からの連絡に使用するほか、今後のプログラム内容の改善を図るための学内統計資料として、個人を特定することのできない形に加工した統計処理用のデータとして使用場合があります。また、本学が留学の参加者に代わって派遣先大学、旅行会社、保険会社、危機管理支援サービスを提供する会社、海外用携帯電話レンタルサービスを提供する会社、航空会社、関係省庁および在外公館等に、必要な情報についてのみ提供します。

(13) 各派遣先大学紹介・学生体験記



国・都市：中国・大連市

中国の東海岸に位置し、中国東北遼東半島の最南端にあります。緯度は日本の仙台とほぼ同じです。中国の重要な港、貿易、工業、観光の都市です。

■創立：1964年

■学生数：約15,000人

■大学の特徴：

- ・中国東北地方唯一の外国語大学。漢学院、日本語学院などがあり、本校、分校、研究所など20ヶ所以上の施設を有しています。
- ・漢学院は中国で最も早く中国語言語本科を設けた学校の一つであり、設立20年で30ヶ国から長期留学生約10,000人、短期留学生約4,000人を受け入れています。
- ・漢学院には、中国文化と国際経済貿易の二つのコースが設けられており、中国文化コースで短期間に中国語のレベルを向上させることも可能です。
- ・2013年5月より大連外国語学院から大連外国語大学へ改名されました。

大連外国語大学



過年度派遣学生体験記

(2019年度夏期 BSA II・男性)

「留学中に困ることなんてないだろう」そう思って出発した私ですが、約4ヶ月を振り返ってみると銀行開設、入学手続き、日々の学習面など、様々な人の助けをもらい無事に留学生活を終えることができました。留学は今まで2回経験したことがあったので、カルチャーショックを受けるということは全くなかったのですが、過去の留学とは異なり日本語でサポートしてくれる先生がいなかったため、自力で解決する必要がありました。初めの1週間で生活に必要なものを揃え、授業が始まりました。私のクラスだけ偶然日本人が一人だけだったのですが、そのおかげで私の課題であったスピーキング能力とリスニング能力を向上させることができました。日本で中国語を学習していた時もリスニングとスピーキングだけは授業内では微々たる向上でしたが留学中の普通の生活を通じて習得することができました。もし、クラスに日本人がたくさんいたら成果は少なかったに違いないと思います。

私は留学するまで大連はとても小さな街で、寒い、親日という印象しか持っていませんでした。実際行ってみると、方言が強い面や、比較的親切な中国人の方が多いという印象を受けました。また、ロシアと韓国に近い位置に存在するため、ロシア人と韓国人の留学生の割合が今までの留学の時よりも多かったです。メディアでは日韓関係がよくないといった報道がされているけれど留学生はそのような感情を一切持っておらず、たくさんの韓国人と親しくなり、1月の末に韓国で会う計画もできました。今までは韓国に行きたいと思ったこともなかったけど、このような関係を築くことができたのは大連で留学をしたことによるものだと思っています。

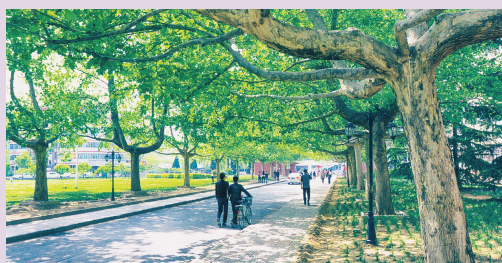
私は3回生の秋学期を利用して留学をしました。大学生活最後のチャンスという反面、正直就活や現地での生活に多少の不安を抱えて、留学をするか非常に迷いました。留学書類締め切りまで迷っていたのが最近のように鮮明に覚えています。しかし、最終的に留学しようという決断に至ったのは「行かずに後悔より行って後悔しよう」という覚悟ができたからです。その結果現地で思い切って自分のしたいこと、学びたいことを目一杯することができ、本当に行ってよかったです。行っていなかったら確実に後悔していたと思います。私は大連外国語大学で過ごした約4ヶ月半かけがえのない思い出、友達、学習をすることができました。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
1 限目	精読	精読	精読	精読	聴力	休憩 観光 外食	休憩 観光 外食
2 限目	閲読	聴力	口語	閲読	口語		
3 限目	語法	自習	自習	語法	太極拳		
4 限目		自習	自習				

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。



国・都市：中国・北京市

北京市の特徴：

中国の首都、政治・文化の中心地である。
故宮、天壇など多数の世界遺産がある。

■創立：1951年

■学生数：約18,000人

■大学の特徴：

- ・北京市北東の市街区に位置し、近隣には中日友好病院や、日本でも馴染みの深いスーパー等の便利な施設があります。
- ・国際経済貿易の専門家養成の高等教育機関として、中国国家プロジェクト「211工程」が初めて承認した重点大学で経済、金融、管理等の分野において一流の水準を有する大学です。
- ・中国で最も早く国際学術交流を展開した大学であり、現在、世界の30ヶ国以上の国や地域にある100以上の大学や研究機構と協力交流関係を結んでいます。

对外経済貿易大学



過年度派遣学生体験記
(2019年度春期 BSAIV1.5年・女性)

1年半のプログラムだったので、本来ならあと半年北京で勉強するはずでしたが、新型コロナウイルスの影響で留学が中止になりました。

私は中国に行きながら中国語も英語も全く得意ではなく、中国語に関しては簡単な会話ですら答えられないような状態でした。

不安しかありませんでしたが、立命館に交換留学していた方とバディが空港まで迎えに来てくださり、大学での手続きも手伝っていただきました。

その後もたくさんの方に助けて頂きながら1年間を無事に過ごすことが出来ました。

正直、1年半のプログラムに申し込むことは私にとってとても大きな決断で、本当に悩みました。

友達ができるのか、食事や環境は合うのか、授業にはついていけるかなど、挙げるとキリがありませんでしたが、実際に行くことと今までの心配が嘘だったかのように楽しい毎日がありました。

そして世界と視野が広がります。

留学は楽しいことばかりでないことも事実ですが、多くのことを吸収出来たり、刺激を素直に受けて変われたり、自分の短所と向き合えるのは若いからこそ出来ることであると実感しました。

大学生は人生最後の夏休みと言われているため、その4年間をどのように過ごすのかとても悩むと思います。

今は、行ってから後悔したらどうしよう、1年半は長すぎるかもと心配するかもしれませんが、私は今振り返ってみると、こんなに濃厚で楽しく、語学だけでなく様々なことを学び、成長できたこの1年は、今までになく、間違いなくこれから歩んでいく中で自信に繋がっているの、心から留学に行けて良かったと思っています。

※先輩体験記より抜粋

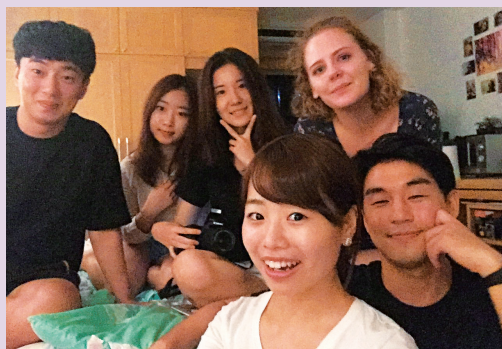
週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	総合／聴力	総合／読解	総合／聴力	総合／読解	読解／総合	観光など
午後	自習	自習	自習	自習	自習	
夜		買い物		買い物		

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

※派遣学生の語学レベルによっては、英語開講または中国語開講の専門科目を履修することが出来ます。

タマサート大学 ビジネススクール



国・都市：タイ・バンコク

バンコクの特徴：

王朝の歴史が深い都市でありタイ経済の中心でもある。

■創立：1951年

■学生数：15,000人

■大学の特徴：

- ・法律学校をその前身とした、タイ国内で2番目に古い名門大学。首相、大臣、議員、ビジネスにおける成功者など、タイだけではなく、国際的にも貢献している多くの人材を輩出しています。
- ・過去60年間徐々に拡大し社会科学、人文科学、自然科学どの領域にもコースが増設され現在では15の学部があります。
- ・バンコクの中心地にありチャオプラヤ川沿いのキャンパスで学びます。
- ・全ての科目が英語で開講されています。General Basic Courses、Business Core Courses に加えて、3つの専門分野（Accounting、Finance、Marketing）から科目履修が可能です。タイ人の学生に加えて、世界中から集まる留学生と一緒に学びます。
- ・バディ制度あり。



過年度派遣学生体験記

(2016年度夏期 BSA II・女性)

留学先では、驚くことばかりでした。まず、『タイ』についての印象が変わりました。正直、タイ留学をするにあたり、英語をここまで学べるとは思っていませんでした。英語圏からの留学生も多く、想像以上に優秀な学生ばかりでした。インターナショナルなタイの学生も多く、勉学に必死に挑む姿には感心しました。

今回の留学では、タイの文化や言語、何かに挑む姿勢、そして慈愛の3つを知ることができました。タイ語は授業、そしてビジネススクールのタイ人の友達が教えてくれました。どれも生活で役立つものばかりで、言語を通じてタイ人の優しさにも触れることができました。そして、特にタイ人の学生は、いつも何かを頑張っていました。勉強に励み交換留学を目指す学生、就きたい職に就くために準備をする学生、親の仕事をサポートする学生など、目標に向かって真っすぐに挑んでいました。また、国王が亡くなった際は国民全員が涙を流し、慈愛の素晴らしさを伝えてくれました。

また、タイの授業は正直、かなりハイレベルでした。特に私が履修したビジネスの授業は英語が不自由なく話せる、理解できる学生ばかりで構成されており、驚きました。また、タイ人の学生は予習や復習を熱心にする為、プレゼンテーションや課題のクオリティもとても高いです。殆どの学生が学費を払ってくれる親に大変感謝し、その気持ちを勉強に充て頑張っていました。そんなタイ人の学生と出会う度、私もその姿勢を見習うべきだと気付かされました。

一方で、毎週出席することが楽しみな授業もありました。その一つがタイダンスです。各週様々な地域のタイのダンスを踊り、最終日には発表会で成果を披露しました。各地域の衣装や化粧まで体験することができ、大変良い経験となりました。留学生用の授業の一つなので、男性女性関係なく、タマサート大学に留学される方には是非お勧めしたいです。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	自習		Beginning Thai (タイ語初級)	自習	Beginning Thai (タイ語初級)	旅行、映画、買い物 など
午後		Global Environment of International Business	Introductory Microeconomic		Thai Dance	

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

ストックホルム大学 ビジネススクール



過年度派遣学生体験記
(2017年度夏期 BSA II・男性)

スウェーデンに留学が決まった直後はあまり実感が湧きませんでしたが、準備が進むにつれて楽しい感情と不安とが混じるようになりました。スウェーデンに到着した時は8月だったのに日本の春くらいの気温で、寒さを感じてしまいました。ただ、スウェーデンで「寒い」といったのは後にも先にもその頃だけだったと思います。はじめは慣れない土地でわからないことが多くありましたが現地の人はとても親切で、次第に楽しさを感じるようになりました。

生活面では、スウェーデンでは物価が高いため物とお金のやりくりにとっても苦労しました。比較的安いスーパーを探してそこで食材を買ったり、いくつかお店を回って安いところを見つけたりと、今考えるとよくやったものだと思います。入寮してはじめての1ヶ月間はWi-Fiが不調だったのですが、業者にメールを送っても返信が1週間後で、催促してやっと来てもらっても工事が上手くいってなかったみたいで、もう1回頼んでも取り合ってもらえないといった日本では考えられないことが起こり、文化の違いを痛感しましたがそれもまた良い経験だったと思います。

授業は日本と同じような大講義形式のものもありますが、ユニークだったのが少人数のセミナーです。スウェーデンでは1ヶ月に1つの授業を深めるという授業スタイルのため、学習スタイルに慣れるのに時間がかかりました。その一環でセミナーによるグループワークが必ずあるのですが、メンバーは日本とは違い意欲的でとても良い刺激を受けました。授業以外では、日本語を勉強している学生と会話をするカフェに行っていました。そこに来る学生は日本語がとても上手で、その人たちの中には日本に来たこともない人がいたことは自分にとって驚きでした。同時に、留学前に「外国語を上達させるには海外に出るべきだ」という考えは浅いものであったのだと痛感しました。「練習をする環境さえ整えばどこでも外国語は上達できる」ということを現地の学生から学ぶことができました。彼らとはカフェでのつながりだけでなく、一緒にスウェーデンの家庭料理やお菓子を作ったり、冬にはスケートに行ったりと私の留学生生活をカラフルなものにしてくれて本当に感謝しかありません。

この留学生生活を経て、人とのつながりの大切さと異国で暮らすことの大変さを感じることができました。その一つ一つが新鮮なもので留学をしなければ感じられなかったものであるため、今回スウェーデンに行けたことが今後の自分の財産になることは間違いのないと思います。

※先輩体験記より抜粋



国・都市：スウェーデン・ストックホルム
ストックホルムの特徴：

ソニーモバイルコミュニケーションズ、Saab、Volvo、IKEAなどの国際企業が多数あることで知られています。

■創立：1878年

■学生数：50,000人

■大学の特徴：

- ・留学生約800人、教職員約6,000人を数えます。ストックホルム大学はスウェーデンの最大かつトップレベルの大学であり、ビジネススクールも、北欧ではトップレベルにランクされています。
- ・ビジネススクールには5,000人以上の学生が所属しています。なお授業は全て英語で行われます。
- ・ストックホルム大学ビジネススクールの卒業生の多くが様々な国際企業で働いています。親日感情が強く、日本人にとって大変生活しやすい国だと言われています。普段の生活でも英語はよく通じます。
- ・バディ制度あり。

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	Management (Lecture)	Management (Lecture)	自習	Management (Lecture)	日本語学習支援	日光浴、アイスホッケー観戦、お菓子作り、パーティーなど
午後	Management (Seminar)	Management (Seminar)	日本語学習支援	Management (Seminar)	自習	

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

ストラスブール大学

EMストラスブールビジネススクール



国・都市：フランス・ストラスブール
ストラスブールの特徴：

ストラスブールはパリからTGVで約2時間、フランクフルト国際空港からバスで2時間です。

■創立：1631年

■学生数：30,000人

■大学の特徴：

- ・ストラスブール大学はその歴史を16世紀にさかのぼるフランス有数の大学で、法、政治、マーケティング、コミュニケーション、ジャーナリズム、科学技術の教育を提供しており、今日に至るまで様々な分野の人材を輩出してきました。
- ・ビジネススクールはEM (Ecole de Management) ストラスブールビジネススクールとして知られ、52もの国と協定を結び、学生の3分の1が世界各国からの留学生で形成されている国際色豊かな機関です。



過年度派遣学生体験記
(2018年度夏期 BSA II・女性)

私は英語を学び始めた頃から、留学に行く事が夢でした。大学に入学してから第二外国語としてフランス語を新たに学びその魅力にはまり、経営の知識も英語とフランス語の知識も深められるEMストラスブールへの留学を決めました。

いざ行くととなると初めての長期海外留学であり、そもそも一人暮らしをすること自体が初めてで勉強以外の不安も大きかったです。VISAの手続き、現地での部屋探しなど、行く前から苦戦の日々でした。しかし、このおかげで自分でよく考えて行動するという当たり前の様で意外と出来ていなかった部分が鍛えられました。

ストラスブールは予想よりもはるかに穏やかでとても過ごしやすい街でした。ルームシェア生活は毎日が楽しくルームメイトのフランス人とは一緒に料理をしたり、フランス語の勉強を手伝ってもらったり、他愛もない事からまじめな話までをする中で、本には載っていない日常の「生きた」会話を体験することができました。30分ほど歩くと、ノートルダム大聖堂がある市内に着きます。日曜日は大抵のお店は閉まっているのですが、朝にお気に入りのパン屋さんにパンを買いに行く事、道端で急に始まるジャズパフォーマンスに足を止める事が日曜日の習慣でした。忘れてはいけなかったのが11月末から1ヶ月間開催される大規模なクリスマスマーケットです。ノートルダム大聖堂とイルミネーションを背景にして飲むホットワインは最高でした。

授業においては、世界中から集まった学生達とグループワークやディスカッション、プレゼンテーションをしました。時には円滑に話し合いが進まなかったり、自分の英語力や知識不足によりついていく事が出来なかったりしましたが、この挫折のおかげで「なんの！」と食らいつく度胸がよりついたと思います。また、週に1度のフランス語の授業に関してはクラスメイトのレベルが目に見えて高く、最初は先生の言っていることを理解するのがやっとで色々と苦労しました。4ヶ月という短い留学期間でしたが、ルームメイトの助けもあり、今は少し自分の意見を伝えられる様になりましたし、日本でも出来る事が見つけられたので良い機会だったと思います。そして何よりも、この1セメスターで「アウトプット」の重要さに気づく事が出来、挫折しそうな時ほど自分の成長の時だと考え行動に移す事が出来る様になりました。言語の勉強はやればやるほど面白くなっていくので、これからも楽しみながら継続していこうと考えています。

今回の留学において得られたものを今後に活かし、一人の人間として成長する糧としていきたいと思っています。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	授業 (Intercultural Management and Leadership など)	授業 (Human Resources and Socially Responsible Perspectives など)	朝マルシェで買物 授業 (Economy of Happiness など)	授業 (Principles in International Team Management など)	授業 (Global Business Negotiation など)	イベントや小旅行
午後	課題	グループワーク	授業 (フランス語など)	バレエやオペラ鑑賞	料理	

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。



国・都市：ドイツ・ブレーメン ブレーメンの特徴：

中世以来の自由都市としての地位を現代まで維持している。ブレーメン州はブレーメン市と、ブレーマーハーフェン市の2都市からなる。

- 創立：1988年
- 学生数：8,000人
- 大学の特徴：

- ・州立単科大学で、ヨーロッパはもちろん世界の大学と交換留学協定を結んでおり、留学生の受入体制も整っています。学生の約10%が外国籍です。
- ・ドイツで最も新しい大学の一つであり、単位互換性の高さや国際性が特色。ドイツ国内の複数の賞を受賞し、2001年にはドイツ学術財団連盟より「改革単科大学」の名称が与えられました。
- ・BSA学生は経済学部の特設プログラムに参加します。ドイツ語および英語コースが開講され、それぞれの言語で専門科目に参加する事ができます。
- ・タンデムの制度あり。

ブレーメン州立経済工科大学



過年度派遣学生体験記 (2017年度夏期 BSAIV・女性)

私は旅行で海外へ行ったことは何度かありましたが、長期滞在はこの留学が初めてでした。留学中は6人の留学生達とシェアハウスで生活していました。初めは少し緊張しましたが、皆フレンドリーでとても安心したのをよく覚えています。ホームパーティーなどで友達の輪も広がり、シェアハウスでの生活を選んで良かったと思っています。家の掃除問題で揉めたことは何度かありましたが、それも今となっては良い思い出です。

日々の過ごし方は人によって様々で、私は午前中にビジネスの授業、午後はタンデム、夜にドイツ語の授業というスケジュールを組んでいたため、一日中大学で過ごす事がほとんどでした。タンデムとはパートナーと互いに言語を教え合う時間で、私の留学生生活の大部分はこの時間で占められていたと言っても過言ではありません。各セメスター6〜7人のタンデムパートナーがいたので、ドイツ語の授業のみ受講していた学生と比べると、毎週10時間ほど多くドイツ語を勉強していた事になります。留学して初めてドイツ語の勉強を始める人もいますし、お願いすれば英語でのタンデムもしてもらえるので、ドイツ語の知識がない人でも心配ありません。

タンデムパートナーとは勉強だけでなく、旅行やパーティーなど、共に過ごす時間が多かったため、お互いの将来についてなどもよく話しました。そこで日本とドイツの文化や社会の違い、そして考え方の違いに気づかされる事が多々あり、改めて私は日本人なのだと感じさせられました。留学をする前は気づかなかったのですが、やはり自分の価値観など全てがヨーロッパの人々とは違い、良くも悪くも日本的だと自分を見直す事ができましたし、他国の文化を今までよりも理解できるようになったと思います。

留学生生活の終盤に、現地の友人に私の第一印象を聞いてみたことがあります。その答えは「日本人らしい小さな女の子」でした。今の印象は？と聞いてみると、「もう小さい女の子ではないね。全て完璧という訳ではないけれど、自分のやりたいことを何でも挑戦して、強くなったと思う。」と返ってきました。ドイツに来て、行動力のある学生たちを目の当たりにして、自分もこの様になりたいと思っていたので、その言葉がとても嬉しく、留学して良かったと強く感じました。

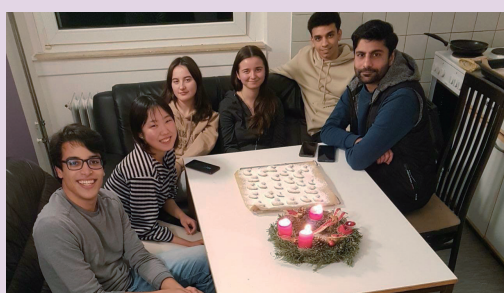
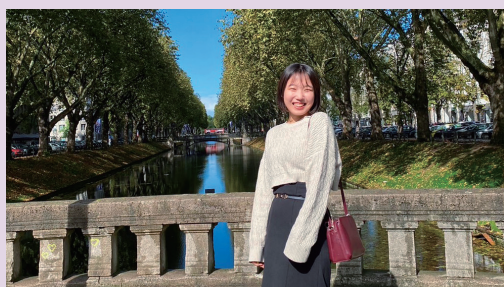
もちろん誰の助けも借りずに自分の力だけで過ごしてきた訳ではありません。多くの人の支えがあってこの留学が無事に終えることができました。ブレーメンで体験した事、学んだ事、出会った人々、全てが今私にとって大きな財産です。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	タンデム (ドイツ人とペアを組み、 お互いの言語を教えあう 時間)	授業 (Global Marketing など)	自習	授業 (Strategic Management など)	授業 (Social Media Marketing など)	イベントや 小旅行
午後	タンデム 英語授業	タンデム ドイツ語授業	授業 (Elements of Corporate Finance など)	タンデム	自習	

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。



国・都市：ドイツ・アーヘン アーヘンの特徴：

電車でパリから約2時間半、ブリュッセルからは約1時間。車で30分ほど行けばオランダ／ベルギー／ドイツ3ヶ国の国境地点に到着する。古代ローマ帝国時代から温泉保養地として知られており、8世紀末には、一時、フランク王国のカルル大帝が王宮を置き事実上の首都となった。

- 創立：1971年
- 学生数：13,000人
- 大学の特徴

- ・世界中の170大学と協定を持っているが、現在日本での交換協定校は立命館大学経営学部のみ。
- ・ドイツの新聞社（Die Zeit）による大学ランキングのビジネス部門でトップにランキングされている。
- ・10学部からなり、アーヘン内の4キャンパスとユーリッヒの1キャンパス、計5キャンパスで開講されている。

アーヘン応用科学大学



過年度派遣学生体験記 (2022年度夏期 BSA II・女性)

「大学では絶対に留学に行きたい！」そんな強い思いからコロナ禍を経て、3回生になり、ついに留学がスタートしました。

アーヘンは小さな街ですが、多様な国籍の学生で溢れる穏やかな街です。

大学での授業で何より驚いたことは、学生の積極性、教授との距離の近さです。わからないことがあればすぐに発言したり、教授と学生のディスカッションベースで授業が展開したりします。さらにテスト期間になると、図書館は席が見つけれられないほどいっぱいになります。学びに対してひたむきな姿勢に圧倒されながらも、いつも刺激を受けていました。正直、始めは英語を聞き取り、授業内容を理解することに必死でしたが周りの学生の前向きさに負けてられないと思い、私も頑張ることができました。日常では、英語が思うようにすぐ出てこず、会話を滞らせてしまうこともしばしばあったのですが、ゆっくりでいいよと理解してくれようとする友達の優しさに救われました。おかげで、英語を使うのが楽しくなりました。

また、人生初めての一人暮らしがアーヘンでの寮生活でした。フレンドリーなフラットメイトたちとキッチンで料理をつくったり、ゲームをしたりして、一人の寂しい時間を埋めてくれました。

休日や長期休暇には、様々な場所へ旅行やイベントに参加しました。アーヘンはベルギーやオランダとの国境に近く、移動しやすい場所です。歴史に触れたり、現地の食べ物を堪能したり、現地の人との交流をするという、現地ではできないことをするのが私の楽しみでした。たまたま話した人と仲良くなり、2人で遊びに行く関係の友達もできました。

このように刺激的な環境と沢山の人の温かさが、私の留学生生活を充実させたものにしてくれました。

最後に留学をしてみての自分自身の変化についてお伝えしたいと思います。私の毎日は学びの日々です。ここには書ききれない学びに満ちた半年間であったことは間違いなく、私の視野・価値観・好奇心は広がりました。将来の選択肢の広がりを感じ、もっと世界中のことをこの目で見てみたいという気持ちになりました。同時に、日本を客観的に見たり、私自身を見直すきっかけにもなりました。私の留学は、3回生秋学期というゼミや就職活動が忙しく、多少なりともハンデはある期間でしたが、それでも行ってよかったと本当に思っています。もちろん、留学生活のすべてがキラキラした時間ではありません。うまくいかないこと、ハプニングを沢山経験しました。ですが、一見マイナスに捉えられることも、私を成長させる学びの一つであり、今となっては良い思い出の一つです。

なんでもできる大学生活。やりたいこと・興味ある事には、小さなことからでもいいので行動してみたいです。行動に移してみてもマイナスになることはないと思います。もちろん留学である必要はありません。もし少しでも留学に興味があれば、ぜひ情報収集から始めてみてください。きっと素敵な留学生活が待っています！

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	Principal of Business Law	自習	International Management and Marketing	Human Resources and Organisation	自習	友達とお出かけ・旅行
午後	Macroeconomics		Principal of Business Law Business Taxation	Business Taxation	バドミントン (サークルのような活動)	
夜	買い物	寮のフラットメイトでの集まり (料理やゲーム)	自習	自習	イベント参加	

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

カモーションカレッジ



国・都市：カナダ・ビクトリア
(ブリティッシュコロンビア州)

ビクトリアの特徴：

カナダ・ブリティッシュコロンビア州
南西部バンクーバー島の南端部にある、
同州の州都。温暖な気候で、美しい英国風
の街並みが広がる。

■創立：1971年

■学生数：14,000人

■大学の特徴：

- ・ビクトリアで最大の大学で、多彩なプログラムを提供しています。
- ・LansdowneとInterurban、2つのメインキャンパスがあり、バスで行き来することができます。
- ・世界70か国から約1,700名の留学生が学んでいる国際的な大学で、職員も多国籍で日本人スタッフが常駐しています。
- ・授業は30名前後の少人数制で、丁寧な教育を受けることができます。



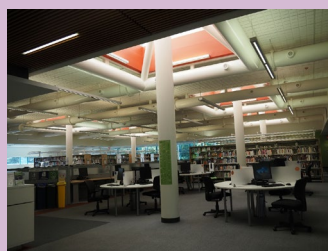
カモーションカレッジの紹介



BC州議事堂



キャンパス内



図書館



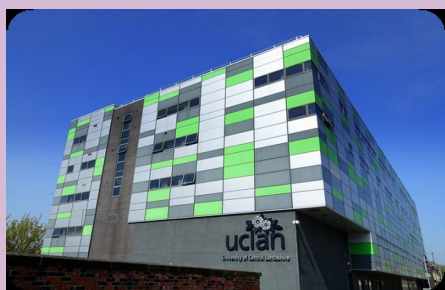
食堂

セントラルランカシャー大学

※2次募集の対象外です



セントラルランカシャー大学の紹介



国名・都市名：イギリス、プレストン（ランカシャー州）
プレストンの特徴：

ランカシャーの州都で、ロンドン、エディンバラから2時間以内、リバプール、マンチェスターからは1時間以内とイギリス全土への交通が非常に良い場所に位置している。

雇用、所得、ワークライフバランス、交通、技能、環境、住宅価格を含む10項目を英国42都市で測定した Good Growth for Cities総合16位にランクされ、英国国内でも注目されている都市でもある。

■創立：1828年

■学生数：約23,000人

■大学の特徴：

- ・イギリス最大の大学のひとつで、プレストン、バーンリー、ウェストレイク、キプロスにもキャンパスを所有し、400以上の学部課程と200以上の大学院過程がある。
- ・2015年のCentre for World University Rankingsでは、全世界の大学の上位3.8%にランクインし、教育の質の高さでは世界的知名度も高い。
- ・世界100か国以上から留学生を受け入れ、世界中の120以上の機関と提携している国際的な大学で、留学生へのサポートも充実している。



(★) 派遣型

レディング大学



過年度派遣学生体験記

(2017年度夏期 BSAIV・男性)

本プログラムを通して、自分は様々な面において成長できたと思います。このプログラムを総合的に見ると、過去に習った理論などをさらに実践的にどうにかせるかなどといった、より発展的なステージで物事を考える良い機会になったと思います。そして、レディング大学での学びの環境は自分の理想に非常に近いものでした。そう考えさせられた理由は教育のシステムと内容にあると思います。

レディング大学のIFPでは、立命館のように1週間に計14科目ほど、それぞれ90分間全く別の科目を学ぶシステムとは違い、基本的に履修科目は4つで、1週間に計14回ほどの講義があり、それぞれの授業時間は50分でした。つまり、1週間の授業のコマ数は同じですが、授業を受ける時間と科目の種類が少ないのです。1週間の間に同じ科目が複数回、別々の日にあることで、仮に予習や復習ができなくても自然と頭に定着しやすくなっていました。そして受け身の授業だけでなく、Seminar、Tutorialなどと少人数形式の異なる形態の授業も行なわれていたため、より濃い内容の授業を受けることができました。

春季タームではグループワークが増え、特に経営学の授業での取り組みは忘れられないものとなりました。マーケティングプロジェクトの課題で、センター街にあるお店のマーケティング調査を行うというものがありました。そのマーケティング調査をする際の着目点などは、その直前に習った理論などを参考にして、それらを反映させて顧客のデータを集めていくというものでした。こうして実験的に経営の理論を利用してデータを見るのは初めてで、非常に楽しく取り組むことができました。そこで苦労したのは、メンバー間のモチベーションの差でした。全員がという訳ではありませんが、課題に対する姿勢は文化背景によって大きく差があるように感じ、ほぼ全てのグループに必ず1人は貢献度0%の人がいたり、グループワークやリーダーシップのスキルが求められる課題でした。

留学生活中は本当に沢山のひととの関わりを大切にできたと感じています。タームが始まってすぐバンドサークルやテニスクラブに所属して、授業で一緒になる学生以外の人との関わりも増やすことができました。そして、自分の趣味の音楽がきっかけで、IFPで初の、学生が特技を披露するタレントショーが開催されました。そこではメインパフォーマーとして会場を盛り上げることができ、IFP以外の人たちなども誘うことができ、面白いイベントを生み出すことができ満足しています。

たったの半年間でしたが、沢山のひとと触れ合い、出会いや環境を非常に大切にできた素敵な留学生活だったと思います。今後もこの半年間で学んだことを活かし、より良い大学生活を送りたいと思います。

※先輩体験記より抜粋



国・都市：イギリス・レディング市

レディング市の特徴：

ロンドンから電車で25分。商業都市で、国際企業の英国支社が近隣に立地しています。

■創立：1926年

■学生数：15,000人

■大学の特徴：

- ・ ヒースロー空港／ガトウィック空港へのアクセスが良い場所にあります。
- ・ キャンパス内には湖もあり、緑も多く、生活環境はとても良いところです。在学生の10%程度は留学生です。
- ・ 国際経営のレディング学派が生まれた大学であり、イギリスで最初に作られた伝統あるファウンデーションコースの経営関連の授業は、ビジネススクールの教授陣が教鞭を取ります。
- ・ ファウンデーションコースに在籍する約120名の学生と共に学修することによって、英語力だけでなく、経営学の基礎学力も飛躍的に伸びることで有名なコースです。

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	授業 (Economics など)	授業 (Economics など)	授業 (Economics など)	授業 (Introduction to Business and Management など)	授業 (International English Plus など)	掃除、買い物、バスケットボールパーティー 課題など
午後	授業 (International English A など)	授業 (Introduction to Business and Management など)	バスケットボール ソサエティー	授業 (Academic Skill など)	買い物など	

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

(★) 2024年度よりカリキュラム変更の予定です。上記は旧カリキュラム時に派遣した学生の体験記です。

【立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラム（BSAプログラムなど）に参加するにあたっての遵守事項】

「立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラムに参加するにあたっての遵守事項」

1. 基本姿勢

立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラム（BSAプログラムなど。以下「プログラム」という。）に参加する学生は、次の点を遵守しなければならない。

- (1) プログラムの目的と主旨を理解し、積極的にまじめな態度で勉学に励まなければならない。
- (2) 立命館大学（以下「本学」という。）の学生として自覚と誇りを持って、本学および派遣先大学・機関（以下「派遣先」という。）の名誉を傷つける行動は慎まなければならない。
- (3) プログラム期間中は、日本の法令および本学の諸規則の他、派遣先の国・地域の法令および諸規則を遵守し、本学および派遣先の教職員の指示に従わなければならない。

2. 健康管理等

- (1) 健康管理は、自らの責任でおこない、服用の必要な医薬品や主治医の紹介状等を現地に持参すること。
- (2) 医師による診断書などにに基づき、留学プログラムへの参加または継続が困難であると本学が判断した場合、これに従うこと。この際、日本国外に滞在している場合は速やかに帰国すること。
- (3) 前号によって参加または継続を中止した後、健康状態等が回復したとしても、教学上の理由等から、本学の判断によりプログラム復帰を認められない場合があることを理解すること。
- (4) 本学が指定する海外旅行保険に、留学に係る出発から帰国までの期間加入すること。また、派遣先大学から別途保険に加入することを指定される場合は、本学指定の海外旅行保険、派遣先大学指定の保険の両方に加入すること。
- (5) 既往症、現在疾患、服薬の状況等について所定の方法で事前に本学に申告すること。また、プログラム参加を許可する医師の診断書等についても、提出すること。
- (6) 傷病等により入院加療の医療措置が必要となった場合は、すみやかに本学および派遣先に報告するとともに教職員の指示に従うこと。ただし、これらの措置に必要な費用の内、保険の補償限度額超過分については、本人が負担すること。
- (7) プログラム期間中、傷病等により、父母等による救援などが必要と本学が判断した場合、父母等に対し、本学の指示に従って行動するよう、予め了承を得ること。ただし、これらの措置に必要な費用の内、保険の補償限度額超過分については、本人が負担すること。
- (8) 既往症および、現在疾患等がある状態でプログラムに参加し症状が悪化したとしても、本学および派遣先に対して、何等かの金銭的要求をせず、またはその責任を問わず、関連して必要な費用の内、保険の補償限度額超過分については、本人が負担すること。
- (9) 緊急に医療手当または手術の必要が生じた場合、学生本人および父母等の個別同意がなくとも、立命館大学または派遣先大学の担当者の判断によって処置されることがあることに同意すること。
- (10) 本学による定期健康診断もしくは本学の指定する健康診断を、出発日から遡って1年以内に受診すること。
- (11) 派遣先大学が所在する国（地域）が指定する予防接種を、指定の期日までに受けること。

3. 経費および補償等

- (1) プログラムに要する費用（申込金・研修料・宿泊費・航空運賃・保険料等）は、指定の期日までに納入すること。指定の期日までにプログラムに要する費用の納入がない場合、プログラム参加を辞退するものとみなす場合があること。
- (2) プログラムに要する費用の納入後は、プログラム参加の辞退はできないことを十分に理解した上で申込手続を行うこと。
- (3) プログラムの派遣候補者として選ばれることは、派遣先大学での受入を保証するものではないこと。また、派遣先大学の事情によっては、受入が許可されない場合もあること。
- (4) 辞退期限として指定している期日以降に、本人の傷病、処分等の理由によってプログラムへ参加または継続が出来なくなった場合、または辞退した場合や、立命館大学によりプログラム参加を取り消された場合、またはプログラムの開始前後にかかわらず立命館大学の責に帰さない事由によりやむを得ずプログラムを中止する場合には、納入されたプログラムに要する費用、当該プログラムに関わる派遣先大学・業者が定めるキャンセル料・追加料金について、学生本人または父母等が負担すること。また、当該支払に際して外貨から日本円への交換手数料が発生する場合は学生本人または父母等が負担すること。
- (5) パスポートやビザの取得手続きに関する遅延および申請却下や天災・災害・ストライキ・伝染病・政治情勢の変化・戦争・テロ、その他不可抗力に起因する事態によって、プログラムの中止、中断及び内容の変更があった場合、本学及び派遣先に損害賠償を要求せず、前号と同様の費用を負担すること。
- (6) 本人の不注意または、本学及び派遣先が管理できない状況下で、事故、病気または死亡事故が発生した場合、本学及び派遣先に対して何等かの金銭的要求をせず、またはその責任を問わないこと。
- (7) 本人の所有物の盗難や損害、交通事故、刑事事件等、本学及び派遣先が管理できない状況下で発生した場合、本人の責任で対応しなければならないこと。
- (8) 法令または公序良俗に反する学生本人の行為により生じた損害については、必要に応じ、賠償の責を負わなければならないこと。
- (9) 本人の故意または重大な過失により、プログラムに重大な損害を与えた場合は、必要に応じ、賠償の責を負わなければならないこと。
- (10) プログラム参加に伴う渡航期間・受講期間が、本学における講義・補講、定期試験、追試験等と重なった場合、特別な配慮は行われないこと。

4. 個人情報取扱いに関する同意

- (1) 立命館大学経営学部事務室に届け出た個人情報について、立命館大学経営学部事務室が、旅行会社、保険会社、危機管理支援サービスを提供する会社、海外用携帯電話レンタルサービスを提供する会社、航空会社、関係省庁および在外公館に提供・共有し、プログラム運営のために利用すること。
- (2) 立命館大学経営学部事務室が、プログラム運営のために、派遣先大学等から成績情報、生活情報等の個人情報の提供を受けることや派遣先大学に成績情報・生活情報等の個人情報を提供することに同意すること。

5. 書類の提出

上記事項を理解し厳守するために、本人及び父母等連名による誓約書を提出すること。

(1) 報告書等の提出

本学に対して、所定の報告書等を所定の期日までに提出すること。

(2) 誓約書の提出

上記事項および「立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラム（BSA プログラムなど）に参加するにあたっての遵守事項」を理解し、厳守するために、本人および父母等連名による誓約書を提出すること。

(3) その他所定の書類の提出

本学に対して、別途指示があった場合は、所定の書類についても確認し、本人および父母等連名にて所定の期日までに提出すること。

「立命館大学および本学と提携する関連機関にて代理で航空券を手配するプログラム（BSA I・I Plus・III など）に参加するにあたっての遵守事項」

1. 入国・帰国

- (1) 派遣先での研修に際しては、所定の航空便等を利用して入国し、個人での入国を行わないこと。
- (2) 派遣先での研修修了後は、所定の航空便等を使用して帰国し、個人での帰国を行わないこと。
- (3) 本学および派遣先両方の許可なしに日本への一時帰国および再入国を行わないこと。
- (4) 所定の基準に基づき、学業面から留学プログラムへ参加の継続が困難と本学が判断し、帰国を命じた場合には、当該措置に従うこと。

2. 自由時間における行動および規律事項

- (1) 派遣先の寮規程または入居したホームステイ先の規則に従い、生活すること。
- (2) 自動車、オートバイ、船舶、航空機等の運転、操縦および購入を行わないこと。
- (3) バンジージャンプ、スカイダイビング、スキューバーダイビング等、危険な行為を行わないこと。
- (4) プログラム期間中に旅行または外泊をする場合は、本学の担当者に対し、所定の書類を提出し許可を得ること。
- (5) 前号の旅行または外泊の内容について、本学または派遣先から変更や中止の指示があった場合、当該指示に従うこと。
- (6) 麻薬、向精神薬等日本の法律または派遣先大学が所在する国（地域）の法律により違法とされる薬物、危険ドラッグ、銃等の所持、使用、購入および日本への持ち込みはしないこと。
- (7) 派遣先大学の授業の録画や写真撮影などは、授業担当者の許可を得ること。
- (8) 派遣先国および地域で危機が発生し立命館大学が帰国を命じた場合は、命令および指示に従い安全を確保したうえで速やかに帰国すること。

「各自で航空券を手配するプログラム（BSA II・IV など）に参加するにあたっての遵守事項」

1. 入国・帰国

- (1) 本学および派遣先が定める期間内に出国・帰国すること。
- (2) 本学および派遣先両方の許可なしに日本への一時帰国および再入国を行わないこと。

2. 自由時間における行動および規律事項

- (1) 本学および派遣先が指定する居住施設に入居すること。
- (2) 派遣先の寮規程および入居した居住施設の規則に従い、生活すること。
- (3) 自動車、オートバイ、船舶、航空機等の運転、操縦および購入を行わないこと。
- (4) バンジージャンプ、スカイダイビング、スキューバーダイビング等、危険な行為を行わないこと。
- (5) 派遣先の休暇期間を含むプログラム期間中に、旅行または一時帰国をする場合は、派遣先にその旨を報告するとともに、本学の担当者に対し、所定の書類を提出し許可を得ること。
- (6) 前号の旅行または一時帰国の内容について、本学または派遣先から変更や中止の指示があった場合、当該指示に従うこと。
- (7) 麻薬、向精神薬等日本の法律または派遣先大学が所在する国（地域）の法律により違法とされる薬物、危険ドラッグ、銃等の所持、使用、購入および日本への持ち込みはしないこと。
- (8) 派遣先大学の授業の録画や写真撮影などは、授業担当者の許可を得ること。
- (9) 派遣先国および地域で危機が発生し立命館大学が帰国を命じた場合は、命令および指示に従い安全を確保したうえで速やかに帰国すること。

「オンライン留学プログラムに参加するにあたっての遵守事項」

1. 学習準備

- (1) オンライン留学等のプログラム参加にあたり、受講のための環境（パソコンやタブレット等受信機器や通信環境等）整備や受講に必要な通信費用は、学生本人が負担すること。

2. 規律事項

オンライン授業の受講にあたり、以下の行為は、情報倫理に反する行為として固く禁止する。

- ① オンライン授業のために配布されたオンライン会議システムの情報（URL、ミーティング ID、パスワード）を、授業と関係のない第三者と共有すること。
- ② ライブ形式で実施されるオンライン授業の様子を派遣先大学の担当教員や出席者の許可なく写真に撮り SNS などと共有し、拡散すること。また、担当教員の許可なく、授業の内容を録音・録画し、それを公開すること。
- ③ オンライン授業で配布された資料等を、派遣先大学の担当教員の許可なく再配布すること。
- ④ 授業での活用を目的としてインターネット上（Youtube 等）で限定公開されている動画資料について、その URL を授業と関係のない第三者と共有すること。

立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラム（BSA プログラムなど）に関する承諾書

立命館大学長 様

私は、2023 年度立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラム（BSA プログラムなど。現地への渡航を伴わないオンラインのものも含む。以下「プログラム」という。）に参加するにあたり、立命館大学の代表学生として海外に派遣されることを自覚したうえで、プログラムの募集要項に記載の事項および次の各事項を承諾し、誠実に履行します。なお、承諾内容に反した場合、立命館大学の代表学生として相応しくない行動を取った場合は、プログラムへの参加取消または帰国措置を命じられても、異議を申し立てません。

1. プログラム参加手続の履行

- (1) プログラム申込金および実習費ならびにその他諸経費がかかる場合は、指定の期日までに納入すること。指定の期日までにプログラム申込金、実習費等の納入がない場合、プログラム参加を辞退するものとみなす場合があること。
- (2) プログラム申込金納入後は、プログラム参加の辞退はできないことを十分に理解した上で申込手続を行うこと。
- (3) 立命館大学または経営学部・経営学研究科が辞退期限として指定している期日以降にプログラム参加を辞退する場合、立命館大学によりプログラム参加を取り消された場合、またはプログラムの開始前後にかかわらず立命館大学の責に帰さない事由によりやむを得ずプログラムを中止する場合には、立命館大学に納付したプログラム申込金、当該プログラムへの参加にあたり負担した費用、辞退・参加取消・中止により発生する費用、当該プログラムに関わる派遣先大学・業者が定めるキャンセル料・追加料金について、学生本人または父母等が負担すること。また、当該支払に際して外貨から日本円への交換手数料が発生する場合は学生本人または父母等が負担すること。
- (4) 立命館大学が指定する海外旅行保険および危機管理支援サービス（以下「海外旅行保険等」と総称する。）に、留学に係る出発から帰国までの期間加入すること。また、派遣先大学から別途で海外旅行保険等に参加することを指定された場合は、立命館大学および派遣先大学が指定するそれぞれの海外旅行保険等に参加すること。
- (5) 立命館大学または経営学部・経営学研究科が指定する往復の航空便、指定旅行代理店、指定査証代行取得業者、指定宿舎がある場合は、それらを利用することとし、指定の期日までに手続を行うこと。指定の期日までにビザ、パスポート等の取得ができない場合、プログラム参加を辞退すること。
- (6) 立命館大学および経営学部・経営学研究科が指定するガイダンスに出席し、指定の期日までに必要な書類を提出すること。
- (7) 立命館大学の定期健康診断を受診すること。何らかの事情で受診できていなかった場合は、指定の期日までに、別途健康診断を受診すること。医師による診断に基づき、プログラムへの参加が困難であると立命館大学が判断した場合、プログラム参加を認めないことがある。
- (8) 派遣先大学が所在する国（地域）が指定する予防接種を、指定の期日までに受けること。
- (9) 既往症、現在疾患、服薬の状況等について、指定の期日までに立命館大学に申告すること。また、プログラム参加を許可する医師の診断書等についても、提出すること。

2. プログラムに関する諸条件

- (1) プログラム派遣候補者として選抜されることは、派遣先大学での受入を保証するものではないこと。また、派遣先大学の事情によっては、受入が許可されない場合もあること。
- (2) 本邦外務省による海外安全情報にもとづき、派遣先国または地域に対して危険情報および感染症危険情報レベル2以上が発令された場合、立命館大学は派遣者の生命・身体の安全を最優先し、原則、派遣の中止を判断する。派遣中止が判断された時点ですでに留学を開始している者は、本邦外務省や在外公館の勧告・命令および立命館大学の指示に従い、安全を確保したうえで速やかに日本に帰国すること。ただし、感染症危険情報レベル2または3が発令されている国・地域で、以下の条件および状況を踏まえ、プログラムが実施できることが確認できる場合には、例外としてプログラムを実施または継続することがある。また、危険情報レベル1が発令されている、もしくは発令されていない場合、または感染症危険情報レベル1以上が発令されている（例外としてプログラムが実施または継続する場合も含む）、もしくは発令がされていない場合でも、派遣者の安全確保または学習の継続が保証できないと立命館大学が判断した場合は、派遣の中止および早期の帰国を命ずることがある。この場合において、これらの事態により発生するキャンセル料や帰国手配等に係る費用負担について、海外旅行保険で補填できない場合は学生本人または父母等の負担において対応すること。

<条件>

- ① 日本および対象国・地域における水際対策に関わり、対象国・地域への入国、査証取得および入国後の隔離措置等の影響が限定的であり、計画通りにプログラムが実施できること。
- ② （本学が手配を行うプログラムの場合）派遣先国・地域への渡航において、安全な渡航手段および旅程ならびに航空券が確保できること。
- ③ 派遣先大学が所在する地域周辺において、必要な生活物資および生活環境が確保できること。
また、公共施設（図書館等）および交通機関ならびに教育施設が営まれており、日常の生活において感染症の影響が限定的であること。
- ④ 現地の医療機関において、医療体制の逼迫や医療崩壊がなく、万が一本学の学生が感染症に罹患した場合においても現地医療機関にて対応できる状況であること。
- ⑤ 派遣先大学において、留学生の受け入れ体制が整えられていること。また、本学の学生が感染症に罹患した場合や濃厚接触者（罹患疑い）として指定された場合の対応方針が整えられており、安全に学習に取り組むことができるよう防疫措置が講じられていること。

- (3) プログラム参加中、緊急に医療手当てまたは手術の必要が生じた場合、学生本人および父母等の個別同意がなくとも、立命館大学または派遣先大学の担当者の判断によって処置されることがあること。
- (4) 医師による診断にもとづき、プログラムの継続が困難であると立命館大学が判断した場合、立命館大学の帰国措置の指示に速や

立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラム（BSA プログラムなど）に関する承諾書

かに従うこと。

- (5) プログラムが定める教育上の目的が達成できず、プログラム参加の継続が困難であると立命館大学が判断した場合、立命館大学の帰国ないし受講中止措置の指示に速やかに従うこと。
- (6) 帰国ないし受講中止措置を受けたとき、または自己都合によりプログラムを中止したとき、これに伴って発生する帰国費用等は学生本人または父母等が負担すること。
- (7) プログラム参加にあたり立命館大学から奨学金の給付を受けていた場合、当該奨学金の規程にもとづき、プログラム参加を中止する等の理由により、奨学金の全部または一部の返還を求められることがあること。
- (8) プログラム参加に伴う渡航期間・受講期間が、立命館大学における講義・補講、定期試験、追試験等と重なった場合、特別な配慮は行われないこと。
- (9) ホームステイでは、1 家庭に複数名の学生が滞在する場合があること。寮・ホテルでは、1 部屋に複数名の学生が滞在することが基本となること。
- (10) プログラム参加にあたり、滞在先、航空券等の諸手続、手配等を自身で行わなければならないプログラムについては、事前に諸手続、手配等について十分確認し、必ず自身の責任において遅滞なく行うこと。

3. 個人情報取扱いに関する同意

- (1) 立命館大学経営学部事務室に届け出た個人情報について、立命館大学経営学部事務室が、派遣先大学、事務業務受託会社、旅行会社、査証代行取得会社、保険会社、保険代理店、危機管理支援サービスを提供する会社、海外用携帯電話レンタルサービスを提供する会社、航空会社、関係省庁および在外公館に提供し、プログラム運営や緊急時の対応のために利用することに同意すること。
- (2) 立命館大学経営学部事務室が、プログラム運営のために、派遣先大学等から成績情報、生活情報等の個人情報の提供を受けることと派遣先大学に成績情報・生活情報等の個人情報を提供することに同意すること。

4. プログラム参加の責任

- (1) プログラム参加中に発生したトラブルについては、基本的に学生本人の責任において対処すること。
- (2) オンライン留学等のプログラム参加にあたり、受講のための環境（パソコンやタブレット等受信機器や通信環境等）整備や受講に必要な通信費用は、学生本人が負担すること。
- (3) 学生本人が被った人的・物的損害または自己が派遣先大学もしくは第三者に与えた人的・物的損害が、次の①～⑨のいずれかにあたる場合、学生本人または父母等の責任において対処し、立命館大学に損害賠償その他のいかなる責任も追及しないこと。
 - ① 自然災害、海難、火災、政府や公共団体の指令、戦争、暴動、ストライキ、盗難、隔離、テロリズム、ハイジャック、航空機事故、交通事故、犯罪、流行病、税関規則、航空機等の突然のスケジュール変更、その他の不可抗力により生じた損害
 - ② 立命館大学が管理しえない状況で起こった事件または事故により生じた損害
 - ③ 法令または公序良俗に反する学生本人の行為により生じた損害
 - ④ 学生本人の故意または過失により生じた損害
 - ⑤ プログラムの趣旨・目的から逸脱した学生本人の行為により生じた損害
 - ⑥ 学生本人の個人的問題から生じた損害
 - ⑦ 学生本人が行った滞在先、航空券等の諸手続、手配等により生じた損害
 - ⑧ 通信障害によるトラブル等により生じた損害
 - ⑨ 2（2）の派遣の中止により生じた損害

5. 規律事項

- (1) プログラムの目的と趣旨を理解し、学習および研究に専念すること。
- (2) プログラム期間中は、日本の法令および立命館大学の諸規則ならびに派遣先大学が所在する国（地域）の法令および派遣先大学の諸規則を遵守すること。
- (3) 立命館大学および派遣先大学の教職員の指示に従うこと。
- (4) 麻薬、向精神薬等日本の法律または派遣先大学が所在する国（地域）の法律により違法とされる薬物、危険ドラッグ、銃等の所持、使用、購入および日本への持ち込みはしないこと。
- (5) プログラム参加中に、自動車、オートバイ、船舶、航空機等の運転、操縦および購入を行わないこと。
- (6) バンジージャンプ、スカイダイビング、スキューバダイビング等危険な行為を行わないこと。
- (7) 健康管理は自らの責任で行い、常備薬や主治医の紹介状等を現地に持参すること。
- (8) プログラム参加中に、旅行または外泊する場合は、指定の期日までに所定様式の計画書を立命館大学および必要な場合は派遣先大学にも提出し、承認を得ること。立命館大学または派遣先大学から計画の変更や中止の指示があった場合は、それに従うこと。
- (9) プログラム参加中は、立命館大学が指定する報告を遅滞なく行うこと。
- (10) プログラム終了後はすみやかに帰国すること。立命館大学の許可なく、個人的な理由により滞在期間を延長しないこと。
- (11) 立命館大学の承認なしに、日本への一時帰国・再入国を行わないこと。
- (12) 派遣先大学の寮規程もしくは入居した寮の規則またはホームステイ先の規則に従い、生活すること。
- (13) 派遣先大学の授業の録画や写真撮影などは、授業担当者の許可を得ること。
- (14) 派遣先国および地域で危機が発生し立命館大学が帰国を命じた場合は、命令および指示に従い安全を確保したうえで速やかに帰国すること。
- (15) オンライン授業の受講にあたり、以下の行為は、情報倫理に反する行為として固く禁止する。
 - ① オンライン授業のために配布されたオンライン会議システムの情報（URL、ミーティング ID、パスワード）を、授業と関

立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラム（BSA プログラムなど）に関する承諾書

係のない第三者と共有すること。

- ② ライブ形式で実施されるオンライン授業の様子を派遣先大学の担当教員や出席者の許可なく写真に撮り SNS などでも共有し、拡散すること。また、担当教員の許可なく、授業の内容を録音・録画し、それを公開すること。
- ③ オンライン授業で配布された資料等を、派遣先大学の担当教員の許可なく再配布すること。
- ④ 授業での活用を目的としてインターネット上（Youtube 等）で限定公開されている動画資料について、その URL を授業と関係のない第三者と共有すること。

上記のすべての承諾事項を確認の上、遵守します。

20 年 月 日

学部/専攻

学生証番号

氏名自署

20

父母等

（父母等）

父母等

〒

電話番号

応募時は承諾事項の内容をご確認いただくのみで記入不要です。
作成については合格後に経営学部事務室より別途ご案内いたします。